

## 2018年 AIBA 認定貿易アドバイザー試験サンプル問題（国際マーケティング）

第1問 以下マーケティングに関する問1～問6について、それぞれの指示に従って解答しなさい。

問1 次の文章は、アメリカ・マーケティング協会（AMA）によるマーケティングの定義である。空欄（ア）に該当する最も適切なものを以下から一つ選び解答用紙に記入しなさい。

「マーケティングとは、（ア）に向けて価値を創造、伝達、提供し、組織および組織をとりまくステークホルダーに有益となるよう（ア）との関係性をマネジメントする組織の機能および一連のプロセスである」

- (1) 社会（パブリック）
- (2) 顧客
- (3) 市場
- (4) ニーズ

問2 マーケティング環境分析の目的は、自社の市場における機会と脅威を見出し、マーケティング上の戦略課題を明らかにすることにある。また、環境分析は、大きく外部分析と内部分析に分けられるが、外部分析であるマクロ環境分析として最も適切なものを以下から一つ選び解答用紙に記入しなさい。

- (1) SWOT 分析
- (2) 3C 分析
- (3) 5フォース分析
- (4) PEST 分析

問3 次の消費者の行動を説明するものとして、最も適切なものを以下から一つ選び解答用紙に記入しなさい。

「例えば AV 製品においては、AV マニアにとっては多機能製品の方が面白いと魅力を感じられるが、それほどこだわらない消費者にとっては多機能は煩わしく魅力を感じられない。また、化粧品は、かつてはメーカーが自らのチャンネルで対面販売・コンサルティングし使い方を説明しながら販売する方式が効果的であったが、今ではスーパーや CVS で消費者が自ら選択して購買するようになった。」

- (1) 刺激反応モデル (S-O-R モデル)
- (2) 消費者情報処理モデル
- (3) 消費社会の記号論
- (4) VALS 研究

問 4 次の文章は、CRM (カスタマー・リレーションシップ・マネジメント) についての記述である。空欄 (ア) に該当する最も適切なものを以下から一つ選び解答用紙に記入しなさい。

「CRM のベースとなっている考え方に、(ア)がある。これは、重要な顧客と継続的に取引を行うことにより、企業にとっての利益、すなわち、その顧客から得られる価値の総和を最大にしようという考え方である。単発の取引ではなく、時間軸の概念を入れて顧客価値をとらえているところに特徴がある。」

- (1) CLV (顧客生涯価値)
- (2) ロイヤルティ
- (3) ワン・トゥ・ワン・マーケティング
- (4) CS (顧客満足)

問 5 消費財は、顧客の購買行動に基づいて、最寄品、買回品、専門品、非探索品に分類される。では、家具や大型家電製品など顧客が選択し購入する過程で、適合性、品質、価格、スタイルなどをもとに特性を比較する商品はどれに該当するか。最も適切なものを以下から一つ選び解答用紙に記入しなさい。

- (1) 最寄品
- (2) 買回品
- (3) 専門品
- (4) 非探索品

問 6 サービス業においては、4P を中心とする伝統的なマーケティングに加えて、別の次元におけるマーケティングも重視しなければならない。コトラーとケラーは、企業が顧客に対して行うサービスの作成、価格設定、流通、プロモーションという伝統的なマーケティング、企業が顧客と接するあらゆる従業員に対し優れたサービスが提供できるよう訓練し、彼らを動機づけるマーケティング、従業員と顧客の間に位置し、顧客に対する従業員のスキルに相当するマーケティングの3つで示したが、この3つのマーケティングとして不適切なものを以下から一つ選び解答用紙に記入しなさい。

- (1) マネジリアル・マーケティング
- (2) エクスターナル・マーケティング

- (3) インターナル・マーケティング
- (4) インタラクティブ・マーケティング

第2問 次の文章は、グローバル・マーケティングの潮流に関する記述である。問1～問6について、それぞれの指示に従って解答しなさい。

「グローバル・マーケティングの歴史的展開からわかることは、時代時代の社会の要請や国際化した課題に応じて、グローバル・マーケティング自体が進化してきたことである。21世紀初頭という現代において、世界の国や市場や企業は大きな変革期にあり、グローバル・マーケティングもまた新たな革新のときを迎えている。従ってグローバル・マーケティングを検討するにあたっては、①対象国との関係の多様化、②プレーヤー（参加者）の多様化の2点を考える必要がある。

まず、①（対象国との関係多様化）であるが、日米欧の先進国とそれ以外の新興国・発展途上国との関係について、その再検討・再構築が必要である。1960年代などの初期の頃の国を超えたマーケティングでは、先進国に置かれた本社が権限も能力も高く、進出国の海外子会社をコントロールしていた。それが、1980年代後半以降、海外子会社に資源・能力が蓄積された結果、バートレットとゴシヤールによる（ア）・モデルのように、多国籍企業の各国拠点を水平的ネットワーク構造と捉えるモデルが注目を浴び、相互の（イ）移転の研究が重要性を増した。ただ、水平的とはいいいながらも、基本は本国親会社から海外子会社への垂直的関係が強かった。そうした中で登場したのが、途上国で生まれたイノベーションを先進国に逆流させるという、ゴビンダランジャンが提示した「（ウ）・イノベーション」という新しい概念であった。近年の（エ）市場の拡大の可能性に伴い、先進国・新興国・（エ）市場をあわせた全体の関係性をどう構築していくかが、今のグローバル・マーケティングに求められている。

次に、②（プレーヤーの多様化）については、その最大の推進力は（オ）である。従来は多国籍企業や、少なくともある程度の規模の企業でなければできなかったグローバル・マーケティング活動が、いまや小さな企業でも、また一個人ですえできるようになった。企業の場合、これまでは、（カ）などと、順を踏んで少しずつグローバル化の程度を上げていかなければならなかったのが、いまでは最初から世界を相手にビジネスができるのである。まさに（オ）時代は、ボーン・グローバル企業を多数生み出す時代であり、特に、デジタル・ネイティブといわれる近年の若者世代がビジネスシーンに登場してくる現代、この傾向はますます拡大していくと考えられる。」

問1 バートレットとゴシヤールは1989年に多国籍企業を4つのモデルに分類し、コントロール性を維持しながらも現地適応性を重視するこれからの多国籍企業のモデルを提唱した。空欄（ア）に該当する最も適切なものを以下から一つ選び、解答用紙に記入しなさい。

- (1) マルチナショナル
- (2) インターナショナル
- (3) マルチドメスティック
- (4) トランスナショナル

問2 空欄（イ）に該当する最も適切なものを以下から一つ選び解答用紙に記入しなさい。

- (1) 技術
- (2) 知識
- (3) 権限
- (4) 情報

問3 空欄（ウ）に該当する最も適切なものを以下から一つ選び解答用紙に記入しなさい。

- (1) リターン
- (2) インタラクティブ
- (3) リバース
- (4) ボトムアップ

問4 空欄（エ）は、年収 3000 ドル未満で生活する開発途上国の低所得者層を意味する言葉が該当するが、最も適切なものを以下から一つ選び解答用紙に記入しなさい。

- (1) BOP
- (2) BRICS
- (3) MENA
- (4) MOP

問5 下線（オ）に該当する最も適切なものを以下から一つ選び解答用紙に記入しなさい。

- (1) ビッグデータ
- (2) マルチメディア
- (3) IoT
- (4) インターネット

問6 下線（カ）は、外国市場への参入モードに関するもので、企業のコントロール力、投入資源の小さいものから大きい順に示されるが、これに該当する最も適切なものを以下から一つ選び解答用紙に記入しなさい。

- (1) 輸出→ライセンス生産→合弁→完全子会社
- (2) 輸出→合弁→ライセンス生産→完全子会社
- (3) 輸出→ライセンス生産→完全子会社→合弁

(4) 輸出→合弁→完全子会社→ライセンス生産

第3問 以下の世界および日本の経済連携（EPA／FTA）・通商政策の動向に関する問1～問5について、それぞれの指示に従って解答しなさい。

問1 日本は2017年に新規に発効したFTAがなかったため、発効済FTAカバー率は前年と同水準にとどまったが、そのカバー率として最も適切なものを以下から一つ選び解答用紙に記入しなさい。

- (1) 23.3%
- (2) 33.3%
- (3) 43.3%
- (4) 53.3%

問2 日本が初めて経済連携協定を締結したのは2002年だが、その相手国として適切なものを以下から一つ選び解答用紙に記入しなさい。

- (1) メキシコ
- (2) シンガポール
- (3) タイ
- (4) インドネシア

問3 TPP（環太平洋パートナーシップ協定）は2016年に署名されたが、2017年に米国が離脱し、米国を除くTPP署名11カ国で2018年3月に「環太平洋パートナーシップに関する包括的および先進的な協定」（通称TPP11）として署名に至った。この11カ国に含まれていない国を以下から一つ選び解答用紙に記入しなさい。

- (1) メキシコ
- (2) タイ
- (3) ベトナム
- (4) ブルネイ

問4 現在交渉が進むFTAのうち、日本のFTAカバー率に大きく寄与すると期待されているものとして最も適切なものを一つ選び解答用紙に記入しなさい。

- (1) FTAAP
- (2) CPTPP
- (3) AJCEP
- (4) RCEP

問5 WTOでは、貿易救済措置は加盟国に認められており、保護貿易主義ともWTO違反とも位置付けられないことを理由に、2017年6月公表の第17回G20レポート以降、貿易救済措置を貿易制限的措置のカテゴリーから外して集計を行っているが、貿易救済措置として不適切なものを以下から一つ選び解答用紙に記入しなさい。

- (1) アンチダンピング措置
- (2) 補助金相殺措置
- (3) セーフガード措置
- (4) キャッチオール規制

## 解答

<一般マーケティング>

第1問

問1 (2) 問2 (4) 問3 (2) 問4 (1) 問5 (2) 問6 (1)

<グローバル・マーケティング>

第2問

問1 (4) 問2 (2) 問3 (3) 問4 (1) 問5 (4) 問6 (1)

<国際的取り決め(白書・報告)>

第3問

問1 (1) 問2 (2) 問3 (2) 問4 (4) 問5 (4)